

2020年度（一社）日本形成外科学会

小児形成外科分野指導医認定試験

（お願い）

座席の指定はありません。

前方から順に着席してください。

試験時間 16:00 ~ 16:30

1. Craniosynostosisの正しい組み合わせはどれか。

2つ選べ。

- a) 尖頭蓋 . . . 人字縫合のみの早期癒合
- b) 三角頭蓋 . . . 前頭縫合のみの早期癒合
- c) 舟状頭蓋 . . . 冠状縫合のみの早期癒合
- d) 斜頭蓋 . . . 片側冠状縫合のみの早期癒合
- e) 短頭蓋 . . . 片側人字縫合のみの早期癒合

2. 唇裂・口蓋裂で正しいのはどれか。

- a) 口蓋裂単独発生群は男性に多い
- b) 唇顎口蓋裂発生群は女性に多い
- c) 唇顎口蓋裂の発生率は右側が高い
- d) 東洋人では約500人に1人の発生率である
- e) 口唇系の組織は胎生7～12週ころに形成される

3. 眼裂狭小症候群について誤りはどれか。

- a) 眼瞼下垂は伴わない
- b) 常染色体優性遺伝である
- c) 責任遺伝子が判明している
- d) 卵巣発達に異常がある I 型と卵巣発達が正常な II 型がある
- e) 内眼角贅皮に対してMustardé法、内田法、V-Y法などが行われる

4. 先天性頸瘻および頸嚢胞について誤りはどれか。
2つ選べ。

- a) 外科的摘出が主たる治療法である
- b) 側頸瘻・嚢胞と正中頸瘻・嚢胞の2種類がある
- c) 術前診断として皮様嚢腫との鑑別は容易である
- d) 正中頸瘻・嚢胞は10歳未満で発症することはまれである
- e) 索状物があれば内腔がないと思われても摘出する方がよい

5. 下肢の先天異常で正しいのはどれか。

- a) 合趾症は第3・4趾間に多い
- b) 多趾症は軸前性のものが多い
- c) Apert症候群では合趾は見られない
- d) 裂足には裂手の合併をみることは稀である
- e) 第4趾短縮症の多くは成長に従って目立つようになる

6. 次の文章で誤りはどれか。

- a) 非対称変形を示す鳩胸は保存療法の良い適応となる
- b) 鳩胸の頻度は漏斗胸のおよそ1/10程度と言われている
- c) 鳩胸治療の第一選択は圧迫装具による保存的治療である
- d) 臍ヘルニアでの保存療法では余剰皮膚発生の抑制効果が期待できる
- e) 臍ヘルニアにおける保存療法では開始時期が早いほど効果が出やすい

7. 先天異常について誤りはどれか。

- a) 生まれつきの異常は多因子性のものが多い
- b) 父の高齢により単一遺伝子性の先天異常のリスクが高まる
- c) 胚子・胎児は妊娠2～3ヶ月に催奇形要因の影響をもっとも受けやすい
- d) 妊娠初期に薬剤を服用した場合は必ず出生前診断を受けるべきである
- e) 先天異常をもつ子どもの20～25%に遺伝子または染色体の異常が見つかる

8. 病名と症状の組み合わせとして不適切なものはどれか。

- a) 赤唇部乳児血管腫-----皮膚潰瘍
- b) Sturge-Weber症候群-----緑内障
- c) Von Hippel-Lindau症候群-----血小板減少
- d) 毛細血管拡張性肉芽腫-----反復性出血
- e) Klippel-Trenaunay症候群-----脚長差による跛行

9. 肥厚性癬痕とケロイドとについて誤りはどれか。
2つ選べ。

- a) 肥厚性癬痕は周囲皮膚に浸潤拡大する
- b) ケロイドでは拡大する方向に発赤を生じる
- c) ケロイドには明らかな誘因がない場合もある
- d) ケロイドでは病変の中央部は陥凹することがある
- e) 肥厚性癬痕とケロイドでは組織学的鑑別が容易である

10. 11歳の男児が右上肢全体にⅢ度、背部全面にⅡ度の熱傷を負った。5の法則を用いた場合、Burn indexとして正しいのはどれか。

- a) 5
- b) 10
- c) 20
- d) 30
- e) 40